

研究代表者 所属・職：社会福祉学部・教授

氏 名：片山 善博

研究課題名：社会福祉における人権、尊厳概念の再検討

研究の概要

社会福祉における人権、尊厳概念について、ドイツの近現代哲学（面にドイツ観念論哲学）の議論を参照しながら、その意義や射程について検討した。これまでの西洋哲学では、人権や尊厳は、主に人格を想定して議論されてきたが、現代、その人格に対する批判がさまざまな観点からなされている。こうした批判を踏まえつつ、人格に基づく人権や尊厳の有効性はどこにあるのか（あるいはないのか）を、カント、ヘーゲルの人格論にまで遡りつつ、検討した。

この際、研究代表者は、戦後の社会福祉理論に大きな影響を与えたヘーゲルの『法・権利の哲学』を参照し、人格論に対する批判も踏まえつつ、人格論から、生きる権利や生命の尊厳などがどのように導き出せるのかを、できるだけ詳細に、考察した。また、現代の尊厳論の視点から、障害者の尊厳について、講演会を開き、人格、人権、尊厳の関係性について検討した。

本研究は、社会福祉理念の最も抽象的なレベルの考察にとどまったが、人格論を軸に社会政策を議論できる枠組みを示すことができたと考えている。今後は、より具体的な内容に踏み込んで、この枠組みの妥当性を検討していきたい。

達成状況・成果内容

2020 年 12 月に本研究に関わる講演会を online で開催することができた。講演テーマは「障害者の尊厳—人権・労働・承認」で、講師は丸山啓史先生（京都教育大学）にお願いした。十数名の参加者があり、障害者の尊厳をめぐる活発な議論ができた。

2020 年 11 月に「法政哲学会」の研究大会のシ

ンポジウム「ヘーゲル『法（権利）の哲学』刊行 200 年記念シンポジウム—人倫構想と現代」において、「社会福祉とヘーゲル法哲学」というテーマで報告（2020 年 11 月）をすることができた。40 名ほどの参加者があり、ヘーゲルの人格概念について有益な議論ができた。またこの報告をもとに、『法政哲学』第 16 号（2021 年発行予定）に、「ヘーゲルの人格概念と社会福祉の理念」を執筆した。

2021 年 3 月に「社会福祉の理念の再検討—ヘーゲル法哲学の視点から—」を執筆し、『現代と文化』第 142 号に掲載することができた。本論文において、人格論を軸に社会政策を議論できる枠組みを示すことができたと考えている。